



PADI ダイブセンター/リゾート/ダイブポート向け 新型コロナウイルス感染症の感染リスクを減らすためにできること

PADI登録ダイブセンター・リゾート、ならびにポートオペレーターの皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症収束後の営業再開に向けての準備に忙しい日々をお過ごしのことと存じます。営業の再開にあたって、どのようにして顧客とスタッフの感染リスクを極力抑えた状態で営業を続けるかは、業界の課題です。

ビジネスの世界にゼロ・リスクはありませんが、どれだけ積極的に一貫した感染症対策を講じることができるかが、防疫の鍵になります。例えば消毒をはじめとする感染症対策のスタッフ・トレーニングを実施することはスタッフとあなたの両方にとって健康と安全を一番に運営していくことへのよい確認の機会になるでしょう。また、あなたがスタッフに求めていることへの具体的な認識を伝える場にもなります。また、店舗の講じている対策を積極的に一般告知することは、顧客の不安を払拭しつつ、安心してダイビングしていただくためにご来店いただくきっかけとして役立ちます。

現実的に多くのダイブ・オペレーターは先見的なアイデアと少しの投資をするだけで、今までの運営手順からそこまで変更せずに十分な感染症対策を講じられると感じています。

以下の情報を是非、今後の活動を再開する上での参考、またはチェック・リストとしてご活用ください。

ダイビング・オペレーターへの推奨事項

1. このセクションの後に記載の「ダイビング、ダイバー・トレーニング中における新型コロナウイルス感染リスク軽減のためのガイドライン」を確認し、全てのPADI コース、ダイビング活動、ブリーフィングで実践してください。
2. プロサイト(またはPADI Pro's site)から [「ダイバーにできる8つの新型コロナウイルス感染症対策」](#) をダウンロードして、プリントアウトし、店内に掲載することで来店したダイバーに注意を喚起することができます。
3. PADI Pros' Site ([Training Bulletin/Training News](#)) から各PADI地域オフィスの「COVID-19 Hub」にアクセスして、「ビジネス・サバイバル・ウェビナー」のライブ、または録画を視聴しましょう。これらのウェビナーにはビジネスやトレーニング、マーケティングの様々な視点から、この辛い時期を乗り越えてあなたのビジネスをより強くする為のサポート情報が満載です。(英語) **(日本でも間もなく実施予定です。)**
4. The Divers Alert Network Europe (daneurope.org) では次の記事を掲載しており、以下の関連トピックがカバーされています。参考にしてください。

・ [COVID-19 and Diving Operations: 10 Recommendations on Risk Prevention and Mitigation\(英語\)](#)

・ [COVID-19とダイビング活動：リスクの予防とリスクを軽減するための10の勧告\(日本語\)](#)

(関連トピック)

- ゲストとスタッフの為にとれる対策は？
- 消毒はどのように管理されるべきでしょうか？
- 感染を防ぐためのレンタル器材の取り扱い？
- ゲスト所有の器材の洗浄はどのように行われるべきでしょうか？
- ダイビング・ポートでとるべき対策は？
- バディチェックとエアのシェアはどうすれば安全に実施できるでしょうか？
- どのようにすればシリンダー（タンク）の充填は安全に行えるでしょうか？
- ファースト・エイドとCPR：非常事態ではどのように安全が管理されるべきでしょうか？
- ウイルスは水中でも感染するのか？
- 新型コロナウイルス感染症への感染の懸念が残る中で営業を続ける際に実践されるべき運営手順と緊急時のアクションプランは何でしょうか？

5. DAN Americas (DANアメリカ) サイト内によくある質問ページを特設しています。 [Dive Operations and COVID-19 – Prepping for Return](#)

6. ダイビング器材の消毒方法や消毒液に関する情報はDivers Alert Network < [diversalertnetwork.org](#) > の [新型コロナウイルス感染症とスクーバ器材の消毒\(Disinfection of Scuba Equipment and COVID-19、英語\)](#) のサイトをご覧ください。

ダイビング、ダイバー・トレーニング中における 新型コロナウイルス感染リスク軽減のためのガイドライン

他のアクティビティにおいても同様ですが、特定の事項に注意を払って新型コロナウイルス感染のリスクを軽減することは重要です。幸いなことには、リスクの軽減は特に複雑で厄介な手順を踏まずとも、特定の配慮と調整をすることで実現することができます。

健康状態が良好なスタッフと生徒のみがダイビング/レクチャーを含むコースに参加できます。

これは以前からそうであったはずですが、現況では特に大切な確認事項です。また、健康であっても過去に新型コロナウイルスに限らず、その他の感染症の患者やその濃厚接触者との接触があった人は感染のリスクがないという医療的なアドバイスがあるまでは他者との接触を避けるべきです。

一般的に感染症のリスクを避けるためには

新型コロナウイルス（およびインフルエンザのような他の呼吸器ウイルス）の主な感染リスクは、呼吸（特に咳、くしゃみ、または会話をした場合、他の人の呼気からの飛沫を吸い込む）および接触による感染（感染した表面に触れてから顔/鼻に触れた場合など）に限定されます。ですから注意を払えば通常、リスクを軽減することは簡単です。手順をシンプルに保つと物事はうまくいきます。この資料では、一般的な医療上の推奨事項に基づいた実践、手順、およびヒントを提案していますが、感染リスクを軽減する他の方法がある場合もあります。このような対策により、**感染リスクが大幅に軽減されることが期待されますが、ダイビングをするにあたって生徒とスタッフは、人々がいる場所に行くときと同程度のリスクはどうしても残ることを理解しなければなりません。**

ブリーフィングや、チェックイン、接客を行う場合は地域で推奨されている距離(ソーシャル・ディスタンス)を保って行うように心がけ、飛沫を吸い込むリスクを抑えるために医療用マスク(飛沫感染予防マスクを以下のように表記します)を着用する必要があります。分からないことがあれば、常に慎重に行動するべきでしょう。咳やくしゃみをする必要がある場合は、ティッシュペーパーを使い（そしてきちんと処分します）、必ず手洗い/消毒します。同様に、器材をセットアップする際もできるだけ広がって距離を保つことが大切です。

呼吸のパターン、方向、風向きに注意して、呼吸器感染のリスクを減らします。

ダイビングをすると呼吸のパターンが変わります。例えば、フリーダイビングの後、またはスノーケルをクリアする際は激しく息を吹き込みます。レギュレーターは使用しているダイバーを保護するのに役立ちますが、近くにいる人は呼気を吸い込んでしまう可能性もあります。スノーケルは頭の後ろに向いていますが、状況によっては良くも悪くもなります。また、風向きは呼気をさらに遠くまで運ぶことができます。呼気の流れの方向と他のダイバーの位置、距離、場所などを考慮する必要があります。

水面では安全に問題がない範囲で適切な距離を保ちます。

水面では少し距離をおいたとしても、ガイドラインである2秒以内に届く距離にいれば問題ありません。しかし、同時に生徒ダイバーのスキルの習熟度と水面のコンディションも考慮する必要があることも確かです。水面でダイバー間の距離を保つには水面フロートを有効に使用して、安全性を高め、場合によっては人数比を減らしたり、アシスタントを追加することでグループが広がってしまってもコントロールを維持することができます。

水中ではソーシャル・ディスタンスは必要と考えられていません。

ダイビングは、スクーバ器材を使って呼吸を行う特性から陸上でのスポーツに比べて呼吸器感染のリスクを大幅に軽減することができる利点があります。また、これは水中での安全、コントロール、スキルの練習、およびバディとのコンタクトを比較的近距离で行う必要があることを考えても重要です。

頻繁な手洗いと消毒、医療用マスク着用と、手で顔を触れないようにすることで接触感染のリスクを減らせます。

ダイバーはお互いの器材に触れないようにするのがベストですが、ダイビング前、最中、または後に必要な場合もあります。これは、バックアップ空気源の使用や緊急スイミングアセントのスキル練習や、実際の緊急事態にも当てはまります。したがって、できることはダイバーが自分や他の人のギアに触れる前後に手を洗う/消毒することです。つまり、ほとんどの場合、ダイビングの前後に手を洗うということです。水中にいると接触感染のリスクが低下する可能性があります。専門家の間ではウイルスが不活性化するために必要な期間や環境についての見解が分かっているため、できる限り慎重なアプローチをとることをお勧めします。

肯定的な補強には声やジェスチャー、ハンドシグナルを使います。

握手や、ハイタッチなどの接触を伴うジェスチャーはスキルがよくできたことを生徒に伝える方法として用いられてきましたが、水面では声で、水中では接触しないハンドシグナルで「よくできました」を伝えるようにしましょう。

ダイビングに特有の消毒

スノーケル、レギュレーター、BCDを含む、全ての器材は使用後に消毒する必要があります。DANは最近のウェビナーで[消毒についての見解\(英語\)](#)を示しました。また、こちらの記事では[新型コロナウイルス感染症とスクーバ器材の消毒](#)についても触れています。

すべての消毒剤は、新型コロナウイルスに関連するメーカーの推奨使用方法に従って使用してください。一概に消毒液は環境に有害であるため、地域のガイドラインに従って適切に廃棄してください。

アメリカ疾病予防管理センター (CDC) やその他の主な機関は有効期限内の1000ppm の家庭用漂白剤と水から作る以下の消毒方法を推奨しています。

- 家庭用漂白剤（例えばキッチンハイター、ブリーチなどの次亜塩素酸ナトリウム5%含有の場合）約20 ml に対して1リットルの水と混ぜ合わせ、その液体にかけるだけではなく、器材を完全に浸します。浸す時間には様々な情報がありますが、慎重に5分浸せば十分です。その後、汚染されていない新鮮な水で洗浄し、乾燥させたら消毒されて乾いたバッグに収納します。手洗いと消毒が済んだ清潔な手で行うことも重要です。

注意：漂白剤を他の化学薬品や洗浄剤と混合しないでください-有毒なガスが発生する可能性があります。消毒液を使用するときは換気の良い場所で、手と目の保護具を着用して実施してください。少なくとも毎日、適度に使用した後は、新鮮な混合液を作成してください。アルミニウムの部品はすぐにすすがないと塩素の腐食の影響を受ける可能性があるため、5分間浸した直後にすすぎます。製造元から特に指示がない限り、CCRのカウンターラングおよびその他の呼吸ループの部品の洗浄には塩素系の消毒剤を使用しないでください。カウンターの消毒はメーカーの推奨に従ってください。

家族やカップルをバディにします。

カップルや、家族でコースを受講したり、ダイビングに参加している場合は、既に一般生活で共に過ごしているため、ソーシャル・ディスタンスはそれほど考慮する必要はありません。これは、スキルの練習や、バディのチームとしての設定に便利です。しかし、そのグループ外への、及びグループからの感染リスクを考慮する必要があります。

緊急事態に備えておきましょう。

スタッフは各自でポケット・マスクを所持しておくべきです。濡れない想定で使用する予定のマスクはバルブ付のものを用意します。(バルブは濡れると機能しません)

ファースト・エイドと酸素キットにはあらかじめ十分な数のポケット・マスクやグローブ、消毒剤を入れておきます。ダイバー、スタッフ、事故者、救助者の立場に関わらず緊急事態の対処には一定の感染リスクが伴うことを承知しておくべきです。

くもり止めには唾ではなく、市販のものを使いましょう。

マスクを含む全ての器材のすすぎ/洗浄に水桶を共有するのはおすすできません。使用してしまった場合は、器材も桶の水も“使用済”と捉え、器材は個別に洗浄が済むまで使用するべきではありません。(注意:カメラ専用の桶もダイバーの手や指は入る可能性があるため、リスクは低いもののゼロではありません。)

店舗内や、更衣室などでも極力、ソーシャル・ディスタンスを保ち、医療用マスク着用や手洗い/消毒をはじめとする地域で推奨されている指導には従うべきです。緊急事態には自身ではなく、周囲の人々もリスクにさらすことを考慮して、ダイビングは特に事故のないように慎重に実施するべきです。

スキルの練習とテクニックに関する推奨事項

以下の特定のスキル/状況における推奨事例をご確認ください。
これは例であり、かならずしも唯一の実施方法ではありません。

Open Water Diver Course

スキル/状況	推奨
器材のセットアップ	器材のセットアップの前と後には必ず手を洗って消毒します。エアを汚染するリスクを減らすには、シリンダーバルブの開口部とレギュレーターのファーストステージの開口部、およびダストキャップの接合部分には触れないようにしてください。Oリングを交換する前に、手を消毒してください。
器材の装用とエントリー	非接触オプション：立たずにエントリーできる場所で、座ったまま器材を着用し、エントリーする。ボディのサポートなしで着ることができるスーツを用意する。サポートが必要/手を貸す場合はフル装備の状態マスクをし、呼吸はレギュレーターからする。
バックアップ空気源の使用	<p>スキルを練習する前に、バックアップ空気源のセカンドステージをよく消毒します。誰が誰と練習するかを綿密に計画します。1つのバックアップ空気源につき1人しか使わないようにフォーメーションを組み立てます。これにより、スキルのトレーニングを完了するために浮上して再消毒する必要がなくなります。</p> <p>奇数のグループで練習する場合は次の方法が考えられます。目の前の生徒と線/半円でスキルを開始します。左側から、最初の2人の生徒から始めます。右がエア切れのダイバー役、左が与え手役です。スキルが完了したら、与え手役は右端の列の最後尾に移動します。エア切れ役の生徒は左側に移って与え手役になり、右側の次の生徒がエア切れダイバー役になります。このプロセスを繰り返します。左側の生徒は常に与え手で、右側の生徒は常にエア切れダイバー役です。列の最後に到達すると、与え手であった最初の生徒がエア切れダイバー役になり完了です。この方法で実施すると、バックアップ空気源を再消毒するために水面に浮上する必要がないので、とくにオープン・ウォーターでの講習で特に役立ちます。必要に応じて、認定されたアシスタントの消毒された代替空気源を使用して、生徒にスキルを練習させることもできます。</p> <p>オープン・ウォーターでスキルを練習するときは、バックアップ空気源を使ったスキルで生徒と自身をペアリングして実施する際は特に直接監督が現実的にできているかに注意しながら、必要であれば人数比を減らしたり、コントロールの改善を図ってください。</p> <p>中圧ホースとインフレーターと一体化したバックアップ空気源の場合、ダイバー間で消毒することなく同一のセカンドステージを共有することがないように、いくつかのシミュレーションを行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 推奨される方法は、消毒されたセカンドステージをレギュレーターのファーストステージに追加し、メインのセカンドステージと同様にダイバーの右側に装備する方法です。「エアをシェアする」シグナルを受け取ると、与え手とエア切れダイバー役がホールドし、通常の手順と同じポジションをとります。この際、与え手は口から外した自身のメインのセカンドステージではなく、練習用に追加して消毒されたセカンドステージをエア切れダイバー役に渡します。エア切れダイバー役はそのまま、追加のセカンドステージから呼吸し、与え手は通常するようにインフレーターと一体化したバックアップ空気源に切り替えて呼吸をします。使用したセカンドステージは、消毒が済むまでは他のダイバーが触れたり啜えたりしてはいけません。

	<ul style="list-style-type: none"> 追加のセカンドステージを用意できない場合は、できる限り現実に近いシミュレートを行うことも許容されます。具体的にはまず、「エアをシェアする」のシグナルの後、与え手とエア切れダイバー役がリンクし、実際の交換と同じようなポジションをとります。与え手は自身のセカンドステージを口から外して手を伸ばし、エア切れ役はそれを受け取り、クリアするようにパージしますが、呼吸はしません。代わりに、自身のメインのセカンドステージを一度口から外した後、啞え直してクリアし、セカンドステージを切り替えたことをシミュレートします。一方、与え手は通常どおりにインフレーターと一体化したバックアップ空気源に切り替えて呼吸をします。実際のシナリオのように2人のダイバーを限られた距離でつなぐホースはないため、この方法で実施する場合は、ボディ同士の距離や腕のホールドを確認するのが非常に重要です。
水面でBCDへのオーラルでの給気	スキルを練習していないダイバーはレギュレーターを啞えた状態で、すぐに届く範囲で距離を保ちます。オーラルで膨らませたBCDは、別のダイバーが使用する前に、内部を含めて消毒する必要があることに注意してください。
水面での移動	水面での移動の際は、レギュレーターを使用するか、他のダイバーから遠ざかるように先端に向けたスノーケルを使用してください。スノーケルの練習では、ボディ同士は交代で行い、スノーケルの先端が他のダイバーから遠ざかるようにダイバー同士を配置します。また、ボディのペア間には可能な限り十分なスペースを置きましょう。
エキジット	エキジットするダイバーは、水から出たら他の人から十分に離れるまで、マスクをつけたままにします。マスクやレギュレーターのセカンドステージは水道や他のダイバーにふれることのない流水ですすぎます。マスクを外した後は、手を消毒するか、消毒用タオルを用意するまで顔に触れないでください。
プレダイブ・セーフティ・チェック	十分に距離を保つために間隔をあけて、目視確認と口頭で実施します。近くで器材に触れる必要がある場合は手を消毒してからマスクを着用し、レギュレーターを装着した状態で行います（例：バルブが開いていることの確認）。一部のステップはセットアップの際にボディ同士で協力して行うことができます（たとえば、ボディがお互いにバルブが開いていることを目視確認します）。
ファイブ・ポイント潜降	レギュレーターを啞えるまでは、距離を保ちながら実施し、レギュレーターに切り替えてから近づいて潜降を開始します。
浮上	水面に浮上したら、スノーケルに切り替える前にボディ間の距離をとります。可能であれば、そのままレギュレーターを使用することが望ましいです。
スノーケル・クリアを伴うスキル	十分に浮力が確保できていることが確認できたら、練習はボディやスタッフから距離を置いて実施します。スノーケルの先端が周囲の人間に向いていないかに気を配りながらクリアを行います。
マスクのクリアと脱着	もし生徒ダイバーがパニックから浮上をしなければいけない場合は、コンタクトをしっかりと維持しながら浮上し、水面にでたらマスクとレギュレーターはそのまま浮力の確保と安全の確認をしてから、距離をとり、必要があれば話しかけて指示を与えます。

「エア切れ」対応の練習	ここでの懸念は接触感染なので器材にふれる前に手を洗い、消毒します。
水面でのスクーバ器材の脱着	浮力が確保できているかを確認してください。ボディやスタッフは待っている間レギュレーターを使用してください。お互いに十分な距離を保ちましょう。
曳行のスキル	手をよく消毒したうえで実施します。風向きや曳行の向きを考慮して、息がかかる可能性がある場合はレギュレーターを使用して練習し、他のステップに関しては口頭でシミュレーションを行います。
マスクなしスイム	生徒に手洗いと消毒してもらいます。消毒されていない手で顔は触ってはいけないことを伝えてください。

その他のコースのスキル

アダプティブ・サポート・アドベンチャーダイブ	接触の前後には必ず手を洗う/消毒します。互いの距離が近い時はレギュレーターから呼吸してください。フルサイズのマネキンは、いくつかのスキルの練習に使用できます。
フルフェースマスク・アドベンチャーダイブ	マスクの消毒はメーカーからの推奨方法に従ってください。
サイドマウント・アドベンチャーダイブ	ダイバーはダイビング中に全てのセカンドステージを使用するため：推奨されるオプションは、レギュレーターにダイバー本人が使用するために追加のセカンドステージ（短いホース）をつけることです。エアをシェアする時は、もう一方のシリンダーに切り替えて、長いホースについた消毒済のセカンドステージをわたします。または、オープンウォーター・ダイバーコースのバックアップ空気源の使用の欄で述べたように実際には交換をせずに、自身のセカンドステージを啜えなおしてスキルのシミュレートをする方法もあります。
疲労・パニックをおこしたダイバー	練習の前後には手を消毒し、離れた場所で口頭でやり取りし、救助者役/事故者役は双方ともマスクとレギュレーターを啜えた状態で練習します。「事故者」が拒否するシナリオであったとしても、テクニックの練習中はマスクをつけたままにします。
水面で意識のないダイバー／フリーダイバー	各練習の前後に手と顔を洗って/消毒してください。最も簡単なオプションは、すでに距離をとらずに一緒に生活している生徒同士をペアにすることです。ポケット・マスクを使用します（乾いた状態に保つことができる場合は、バルブを使用できます）。呼気の方向を十分に認識している必要があります。救助者は、ポケット・マスクには口を接触させず、マスクに息を吹き込む位置を実践できたら、実際には頭を外に向けて事故者役にかからないように息を吐きます。マウス・トゥ・マウスでは以下の点も注意します。 （実施例） <ul style="list-style-type: none"> ● ポケット・マスクを事故者役の顔にのせて、鼻をポケット・マスクの上からつまみ、あとの吹き込みの手順はポケット・マスク使用の際と同様に実施します。 ● CPRマネキンで練習する際に使うバリアを使います。ただし、口が接触したり、誤って息をふきかけたりしないように気をつけます。

	<ul style="list-style-type: none"> • スクーバ用のマスクは、事故者から外すシミュレートはしますが、実際は外さずにつけたままにします。これによって、鼻に接触することを防ぎます。息を吹きかけてしまわないように注意しましょう。
<p>フリーダイビングでのブロー・タップ・話しかける</p>	<p>事故者役のマスクは外すシミュレーションはしますが、実際には外しません。これにより、鼻への直接接触を避けることができます。息を吹きかける（ブロー）際は、顔は逸らして息を吐きますが、“事故者の顔に息をふきかける”ことを口頭で確認します。</p>
<p>EFR 一次ケア、二次ケアと緊急用酸素の使用</p>	<p>CPR、ファーストエイド、緊急の酸素トレーニング中は、接触を避け、ソーシャル・ディスタンスを維持することがより困難になる場合があります。ですから参加者は医療用マスクを着用し、バリアを使用して、頻繁に手を消毒/洗浄し、衛生意識を維持することがリスクの軽減につながります。消毒用ワイプ(除菌シート)は、酸素マスクやその他の接触面の消毒に役立ちます（メーカーの指示に従ってください）。コース終了後は器材を保管する前に速やかに消毒を実施します。</p> <p>注意：推奨される手指用の消毒液の多くは 60%以上のアルコールが含まれており、可燃性です。酸素や火元の近くで消毒をするのは危険です。また、酸素や火を扱う前に手が完全に乾いているかを確認してください。</p> <p>Fマネキン は基本的に生徒に一体用意し、コースの前後にはメーカーの推奨に従って肺の交換を含む消毒を実施します。個々のマネキンを各生徒に提供します。医療用マスクの使用と生徒間のソーシャル・ディスタンスを確保します。CPR マネキンは、別の人が使用する前に頭と胸の消毒と肺のバッグの廃棄が必要とします。</p> <p>特定のマネキン衛生ガイドラインについては、以下の地域別のリンクからご参照ください：</p> <ul style="list-style-type: none"> • United Kingdom • American Heart Association • Australian Resuscitation Council/New Zealand Resuscitation Council
<p>EFRとレスキューのシナリオ</p>	<p>より現実的なシナリオを実施するにつれて、ソーシャル・ディスタンスを保つことはより一層難しくなります。そのため、生徒に注意を払い、感染リスクを減らす手順を慎重に実践するようにアドバイスしてください。必要に応じて、インストラクターの判断で一時停止をかけて、医療用マスクを着用したり、手を消毒したりできるようにします。実際の緊急事態での実践よりも長めの距離をおくことが許容されることを強調します。CPR マネキンを救急シナリオで人間の代わり使用することはオプションです。</p>
<p>フリーダイビングにおけるブレダイブとリカバリー呼吸</p>	<p>息のかかる向きに気をつけましょう。とくにフリーダイビングではブリースアップとリカバリー呼吸の際に深く、力強く呼吸する傾向があります。注意して下さい。</p>

地域でのダイビングビジネスへの一般的な推奨事項と要件について

- 地域で設定されているソーシャル・ディスタンスに関する制限、医療用マスクの着用義務、および地方自治体によって指示されたその他の推奨事項と要件には慎重に従ってください。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の為に注意事項に従いながら営業していくために役立つビジネス関連のガイドラインやその他のリソースについては、地域の企業向け窓口や、その他の支援ガイドラインを提示している団体にご確認ください。たとえば、米国のNational Retail Foundationの「[Operation Open Doors – Path to Reopen Retail](#)」では、ソーシャル・ディスタンスや安全性の問題などを克服しながらのビジネスの段階的な再開と、社員を職場に復帰させる方法についてのガイダンスを紹介しています。

ダイブセンターやレクチャー・ルームの環境に関して

公共の場所において広く適用された消毒およびソーシャル・ディスタンスのガイドラインはダイビング事業にも適用されます。 スタッフだけでなくゲストも地域のガイドラインに基づいて適切な医療用マスクの着用とソーシャル・ディスタンスを保つという要件を遵守する必要があります。また、火元や酸素、高熱のエリアを避けて、できるだけ消毒液を配置してスタッフとゲストがすぐに利用できるようにします。またゲストとスタッフには定期的に手を洗って、消毒するように注意喚起を行います。密を避けるために、できる作業は屋外でも必要です。

施設全体、特に人が接触する部位の表面は少なくとも毎日消毒する必要があります。 ドアノブ、手すり、電球のスイッチなどの接触頻度の高い部位を頻りに消毒します。大規模な店舗では、スケジューリングされたクリーニング・チェックリストを作成すると、見落としやスタッフ間の連絡の行き違いを防ぐために役に立ちます。消毒用ワイブ(除菌シート)や洗剤は種類がたくさんありますが、コンピューターのキーボードや画面などの項目については、メーカーの推奨事項を確認してください。

ダイバーは購入やレンタルの前にマスクなどのアイテムを試着するので、そのようなアイテムを消毒するための準備を十分にしておいてください。また器材を試着する前には、ゲストに手洗いと消毒をすすめるようにしてください。

ダイバー向けの「ダイバーにできる8つの新型コロナウイルス感染症対策」をウェブサイトよりダウンロードして印刷し、これらをショールームのフロア、レクチャー・ルーム、器材のピックアップエリアの近く、ダイビングポートなどに貼ることでダイバーとしての適切なエチケットを啓発します。

ウイルスが呼吸器に入らないようにするために、 スタッフはチャージしたり、バルブやレギュレーターを修理したり、Oリングを交換したりする前には必ず手を洗ったり消毒する必要があります。また、全てのダイバーは、バルブの開口部に直接触れたり、エア充填ホースの開口部やレギュレーターの入口に触れたりすることを避けるべきです。コンプレッサー製造業者は、ガソリンスタンドでの感染リスク対策の経験を活かした有用な情報を持っているかもしれません。(例: <https://www.bauer-kompressoren.de/b-virusfree>.)

レンタル器材は消毒に関して特別な注意が必要です。 消毒済の器材と消毒していない器材を十分な距離をおいて分別してください。消毒された器材は、汚染から保護するために密閉容器に保管してください。レンタル器材の取り扱いには、手を洗ったり消毒したりした特定のスタッフのみが行ってください。

ダイバーには、器材用に個々の洗い場が必要です。 乾燥エリアには、各ダイバーのギアが個別に乾燥できる十分なスペースが必要です。

レクチャー・ルームには、ソーシャル・ディスタンスを確保するための十分な空間を設けます。 デスク/テーブルは定期的に、また使用前と使用後に消毒してください。

ボートの運用に関して

船のサイズとダイバーの数にもよりますが、一般的にボート上ではソーシャル・ディスタンスを保つことは特に難しいと考えられています。また、船上は頻りに人が接触する表面部位が多いのも特徴です。これには例えば、ラダー、手すり、シート、およびダイバーやスタッフがつかまるハンドルなどの表面が含まれます。以下の情報は感染リスクの低減に役立ちます:

- ソーシャル・ディスタンスを最優先に尊重します。これは場合によっては乗客数を定員数よりも減らすことを意味するかもしれません。風の影響に注意してください。また、天候によっては、乗客は太陽を避けたり、太陽の下にいることを望んで狭いボートの上でさらに密集してしまうこともあります。対策として乗船者すべてに医療用マスクを着用してもらうことで、リスクを軽減できます。

- 十分な量の消毒剤を準備します。
- 器材のセットアップを乗船前にすませ、スノーケルやマスクなどの軽器材は使うまで器材バッグに入れた状態にしておきます。（接触感染のリスクを低減するため）
- エキジットの際に密集してしまうことを避けるために、エキジットの際にダイバーがつかまって待つトレイル・ラインの長さを伸ばします。
- マスクや、器材を洗浄する為の共用の桶の使用を停止します。
- ダイバーに全般的に慎重な行動を取るよう促します。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は私達の考えと行動パターンを変えつつあります。時として、この変化は途方もなく細かく感じるかもしれませんが、慣れて日々のルーティンとなれば難題ではありません。新型コロナウイルスの脅威が去るまでは真剣に向き合い、ガイドラインを遵守して活動していきましょう。

参考文献とリソース

[Australian Resuscitation Council](#)/[New Zealand Resuscitation Council Cross Infection Risks and Manikin Disinfection](#)

[American Heart Association Equipment Decontamination Guidelines for CPR Training](#)

[CDC \(Centers for Disease Control and Prevention\)](#)

DAN (Divers Alert Network) and DAN Europe

[COVID-19 and Diving Operations PDF](#)

[Disinfecting Scuba Equipment webinar](#)

[Disinfection of Scuba Equipment and COVID-19](#)

[Dive Operations and COVID-19: Prepping for Return](#)

[NRF \(National Retail Federation\)](#)

PADI Resource Hubs

[PADI Americas](#)

[PADI EMEA](#) [PADI](#)

[Asia Pacific](#)

[United Kingdom European Resuscitation Council](#)

[WHO \(World Health Organization\)](#)